

インターベンション治療後におけるCCU症候群発生要因と対処の検討

谷口良美、上村紀代子、阪本順子

山田赤十字病院・CCU看護婦

【目的】当院のCCUは、急性心筋梗塞(以下AMIとする)・待機的インターベンション・急性心不全・胸部外科手術後患者の入室が多く、急激な身体状況の変化と多くのME機器などに取り囲まれるとともに、必然的に安静が強いられる。その中でも、AMIの患者は突然の入院・インターベンション治療・環境の変化によりCCU症候群を起こすことが少なくない。その結果、治療や心筋梗塞急性期の安静保持の妨げとなり、予後に悪影響を及ぼすこともある。CCU症候群をきたす大きな要因として睡眠障害が関与しているという報告もあるが、当院でみられたCCU症候群患者について、その要因と看護婦が行った対処について分析・検討した。【方法】平成13年2月～4月にCCUに入室し、インターベンションを受けた患者のうちCCU症候群を起こした患者をA群(7名)、起こさなかった患者をB群(106名)とし、2群間の比較・検討を行った。また、A群を後ろ向きに調査し、CCU症候群発症要因の分析と看護婦が行った対処の検討を行った。【結果】A群はB群に比し、緊急入院・高齢者・ルートの数に有意差をもって多かった。CCU症候群の初発症状として、不眠・体動・ルートの不快感などがみられた。危険な行為として、ルート抜去などがみられた。対処として、薬剤投与・家族の面会・早期CCU退室が行われた。【考察】CCU症候群の大きな要因として、夜間の睡眠障害が関与しているという報告があるが、本研究でも、夜間の睡眠障害・高齢・緊急入院が大きな要因の一つと考えられた。CCUでは、生命の危機に直面している患者が多く、緊急入院などの短期間の関わりでは精神的・社会的背景が把握しにくく、精神的ケアよりも身体的ケアを優先しがちである。そのため、CCU症候群の予防・対処に対する十分な看護がなされていないのが現状である。【結語】CCU症候群の要因として、夜間の睡眠障害・高齢・緊急入院があった。今後、CCU症候群に対する至適な予防法と対処法を検討して看護に活かしていきたい。